

“自分”を生きる

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。

見よ、それは極めて良かった。

—創世記1章31節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川県

2009年2月13日
第115号

『最善の道を求めて』

高座みどり幼稚園

園長 鈴木 裕美



聖句

『我々の神である主のみ声に聞き従うことこそ最善なのですから。』

エレミヤ書 42章6節

三学期を迎え、一年という時間の単位がとて早く感じられます。日々の保育の中で子どもたちと出会い、私たちも子どもと同様に新しい経験を重ね、保育にあたつてこられたことに感謝したいと思えます。同労の皆さまはこのとき何を子どもたちに手渡していこうかと、いろいろ考えておられることでしょうか。

Nはその年齢の子どもにしては少し言葉の発達がゆっくりな子どもでした。しかし笑顔を絶やさず話しかけるとニコニコと首を縦に振るので、誰からも慕われ元気に遊ぶ子どもでした。泣いたりすることはそれまでありませんでした。

ところがある日、私の元に駆け寄ってきて微笑むのですが、いつもと違います。言葉を用いて状況を話すことのできないNにこれこれ聞き反応を見ましたが、その目には涙を浮かべながらも笑っているのです。私はこのとき、Nは内側に沸き起こる様々な感情を笑顔で表現していたことに初めて気づかされ、この時までそのことに気づかなかつたことを後悔しました。

しばらくは喜びの笑顔にも応えることが苦しく感じられることもありました。それでも未熟な保育者に向かつて笑顔を絶やしません。そのような中で差し向けられる笑顔に、「今一番すべきことは何であるのか」という思いへ導かれました。最善が尽くせなくても、次に善いことはなにか、その次は……と。それからNと二人で祈ることが幾度となくありました。その後Nはよく声を発し、喜怒哀楽を表情や言葉で表すようになりました。たどたどしい言葉であっても懸命に祈る姿も見られました。しかし屈託のないあの笑顔はいつまでも変わることがありませんでした。

幼稚園生活の中でも様々なことがおこります。そして思い悩むうちに、先々のことまで心配し、心がいつぱいになり目の前の子どもを見失ってしまふことがないでしょうか？ 丁度おぼれそうになつて喘いでいると、実は浅瀬まで導かれていることに気づかず大騒ぎをしていたり、神様が差し出してくださる手に気づくことができない状態です。

神様は私たちに最善をなそうと、手を伸ばしてくださっているのにもかわらず、「自分が」必死になる、「自分しか」見えていないために伸ばされた手に気づかず騒いでしまうのです。私たちはひととき静まつて神様に祈り、神様のお取り扱いをそのまま受け止め、最善をなしてくださる神様の手を取り、子どもたちがしっかり握ることができるように支えていきたいと思えます。

「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝をこめて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超え、神の平和が、あなた方の心と考へをキリスト・イエスによつて守ることでしょう。」

フィリピの信徒への手紙四章六〜七節



夏期講習会 報告

八月二十九日、神奈川部会の夏期講習会が行われました。今年は関東学院大学のキャンパスをお借りし、学ぶのにふさわしい環境で講習を深めることができました。

始めに片瀬のぞみ教会の小林誠治先生に力強いメッセージをいただきました。そして主題講演として、滝乃川教会牧師で聖学院大学教授でもある深井智朗先生に、「自分を生きる」と題してお話をいただきました。

「自分を生きる」というのは今を生きるということ。「今」には二つの視点があることを教えてくださいました。一つは歴史を積み重ねた、過去の延長としての今があるということ。あやまちや失敗は変えることができないが、それらの持つ意味は変えられる、つまり新しく受け取り直すことができるということです。自分の失敗を背負って集い、恵みを数えて週ごとに受け取り直すことは、礼拝そのもの。私たちは礼拝により、新しい自分に出会うことができるのは、神様から与えられた恵みなのではないでしょうか。

二つ目の視点として、将来に向かって変えることのできる今があります。先の見えない時代には絶望が人間にとって最も深い病です。自分は新しくなれるのかと思う時、聖書に古い人を脱ぎ捨て、キリストからいただく新しい着物を着ると書かれています。つまり洗礼によって新しくされたように、イエス・キリストは私たちに染みついた消えないしみや汚れをも知っていただく方であることを思い返すことができました。

日々の保育の中で、悩んだりつまづいたりすることの繰り返しですが、キリスト教保育を実践する場にあつて、礼拝やイエス・キリストに連なっていれば、絶望することなく、目的を持って新しい一歩を踏み出すことができるという希望をいただきました。

めぐみの幼稚園 田崎由布



A 分科会報告

「つたえよう手のぬくもりを」

講師 小宮路敏先生

A分科会は題の通り、ぬくもりが伝わる分科会となりました。講師の小宮路敏先生は、三二年間、玉川学園小学部で子どもたちと共に、楽しい音楽の授業を創りあげていらした先生です。また玉川大学でも多くの教育者の養成に関わっていらつしやいました。讚美歌から始まって、本当に沢山の歌にあらためて出会わせていただきました。

歌を豊かに活用する方法、また教材を加えることで、音楽の世界が無限に広がることを体験することができました。また、先生は教育とは、そのままの姿をそのまま受け止めること、笑顔から始まること、教師自身が無条件に楽しんで心を開放することが大切であること、スキンシップの大切さ等、温かい言葉で語ってくださいました。子どもたちに伝える魔法の三つの言葉「大好き」「宝だよ」「味方だよ」を教えてくださいながら、私たちにその言葉を浴びせるようにプレゼントしてください、心が平安で満たされました。

B 分科会報告

「聖書のお話しかせて」

講師 佐川真弓先生

「聖書のお話をしたのだけど、大切なことだから間違えてはいけないと思うと緊張してしまう。」
「聖書のお話はたくさんあるのに、レパートリーが広がらない」
「イエスさまは大好き。だけど、洗礼を受けていない私が話してもいいの?」……

B分科会は、日頃からこれらのことを課題としている保育者たちが多く集まりました。講師の佐川真弓先生は、ご自身の保育経験から、私たちに近づいてくださり、大切なことを分かりやすく話してくださいました。

ユダヤの伝統的な宗教教育の場は家庭と教会であること、両親が子どもたちに話すように、生活を

共にしている保育者が折々に聖話を語り聞かせることの大切さ……等々。そして、先生ご自身が作られて活用していた聖書のお話リストを私たちにくださいました。

課題を抱えていた私たちも、分科会が終わるときには、

「もっというろいろなお話ができるようになりたい！」

「私の言葉で、大好きなイエスキマのことを子どもたちに話そう！」

「今まで緊張していたから、喜びが伝わらなかったのかもしれない喜びを伝えたい！」

と、変えられていました。小グループで、自分の思いを言葉にして共有しあうことも大切な経験でした。

横浜英和幼稚園 菰田とみ子

C 分科会報告

「保護者との関わり方」保育にかすカウンセリングマインド」

講師 伊志嶺美津子先生

ノーバディズ・パーフェクト・プログラムはファシリテーション技法を用いて乳幼児を持つ親をサポートするものです。指導型では

なく互いに持っている可能性や知恵を出し合い、自分自身を信頼する感覚を経験しつつ、子育てに必要な知識やスキルを築いていけるようにアプローチしていきます。グループをファシリテーター（促進）する人をファシリテーターと呼びます。実際にファシリテーター役を経験しながら学びを深めました。

参加者の感想の中に、

「話し合いや相談事を受けた時に結論は出さなくても良いということとは新しい気づきでした」

「相手がどう感じているのか気にしていくことはとても大切です」

「懇談会で使えそうです」とありました。

プログラムのテキストを幾つか紹介いたします。

1 カナダ保健省『ノーバディズ・パーフェクト・シリーズ』全5巻

2 カナダBC家族協会『父親』伊志嶺美津子編・向田久美子訳

3 子ども家庭リソースセンター編『ノーバディズ・パーフェクト活用の手引き』

いずれもドメス出版NPO子ども家庭リソースセンター

関東学院野庭幼稚園 小高千恵

D 分科会報告

「お話の楽しさを子どもたちに」

講師 内藤直子先生

“素話を聴くって、こんなに気持ちがいいんだ”。内藤直子先生の素話は、参加者を一瞬にしてお話の世界に引きこみ、もつと聴いていたいと思わせるものでした。D分科会では、現代の子どもを取りまく「ことばの環境」について考えることから始まり、わらべうたやお話、昔話について学びました。以下ご報告します。

人間がことばを獲得していくのは、自分がサインを出した時に全信頼を寄せる人が本当に誠実にことばを返してくれるかどうかに関わっている。大人の誠実なことばや生き方が子どもの幼児期を作るといえる。しかし現代においては、子どもは人工的な音（テレビやビデオの声、機械の声）にさらされている。そこで、子どもが“この人の声は選んで聞こう”という人間関係を作り、親しい人の“生の声”を期待をこめて耳をそば立てて聞くためにも、まず土台として大人が静かな環境を心がけることが大切だ。そして、子どもがこと

ばのイメージを豊かに持つためには、五感すべてを使って生の体験をし、気持ちを揺さぶられる様な経験を増やしてやるが必要である。語られることばだけを頼りに自分の心の中にお話の世界を思い描き、心から楽しむことができるとき、子どもの中に想像力、考える力、本や人に対する信頼感などが培われていく。それは子どもが生きていく上でとても大切な素地となり、心の発達にとって大きな支えになる。等、学ぶことができました。

平和学園幼稚園 河窪悦子

E 分科会報告

「『ことば』と『ころろ』を豊かに育てる絵本」

講師 荒川 薫先生

「絵本にこんにちは」とのテーマ通り、先生のお薦めの絵本・絵本を選ぶための本などを紹介していただき、たくさんさんの絵本との出会いがありました。分科会に参加された先生方ひとりひとりに語りかけるようにお話していただいた先生の言葉は、ひとつひとつが心に響きました。

①読み聞かせにはどのような

力があるのか ②絵本の選び方

③絵本の楽しさを伝える読み聞かせとは」についてお話ししてくださいました。「これから成長する乳幼児期は、人生の土台となる時期の時期に《こころの感性》を豊かにしなければなりません。感性を育てるには、喜び・疑問を共感する人が必要で、共感して育てる所が絵本。子どもが『絵本よんで』と話し、その絵本を喜んで聞く。楽しさの中で、《ことばとこころ》が育つ。」とのお話は、子どもとの絵本の時間の大切さを改めて感じました。

また、いつも迷ってしまう絵本選びでは、「長い年月読み継がれている」「絵が物語っていて、絵と文とが調和している」絵本がよい。絵本の読み方は、「読み手の心を聞き手に届けるように一緒に楽しみ、こころを込めて自然な声で読む」ことを教えてくださいました。

最後に「子どもは絵を読んでいることを忘れずに」と、「おおきなかぶ」の絵本を読んでくださり、聞き手となって絵本の楽しさ、喜びを体験することで、新たな発見もありました。

新学期、子どもを膝にのせ、木陰の下で「読んで」と持ってきた絵本を一緒に楽しみました。「また読んでね」と、にっこり笑顔の

子ども。豊かな学びとなる時でした。

大師新生幼稚園 鈴木瑞枝

F 分科会報告

「自分の好きな遊びで、

子どもは育つ」

講師 宮崎扶子先生

(元園長)

先生は、今まで多くの子どもとかわり、現場で経験を積まれてきました。始めに「子どもの名前では、一人の人格として正しく呼んであげること」とおっしゃられ、子どもの心を大切に保育することを強調されました。そして、以下のことを教えてくださいました。

何もしないでじっとしている子どもに対して、何もしていないと思うのではなく、その子は他の子の遊んでいる様子を観察して、楽しんでいられるかもしれないと思う。そこに意味があるのです。また、子どもが遊んでいる時に、「なにをしているの？」と聞くのは禁句です。その子は遊びに没頭しているし、意味のない遊びをしているように、意味のある遊びをしているのです。そして保育者は、子どもと共に真剣に遊び、楽しさ、悲

しき、悔しさを共感します。子どもたちは、遊びの中で子ども同士のかかわり方や人の痛みが分かるようになり、社会性、協調性を学んでいくのです。先生は、子どもたちが卒園しても、幼稚園が楽しかったと思える園づくりが大切だと締めくくられました。

ひかりの子幼稚園園長 豊嶋ときわ

G 分科会報告

「保護者との関わり方」

講師 土谷みち子先生

G分科会は、子育て支援の講義の後、「送り迎えの際に固く口と心を開きしている保護者へどのように対応していくか」という課題のもと、小グループをつくり、ロールプレイ形式で、受講者のそれぞれが役割を分担して真剣に考え合う時をもちました。子どもが育ちゆく過程での地域や家庭環境のあり方が大きく変化する中で、親も子どももひと昔前とは違ってきており、保護者と協働して子どもの育ちを支えることが難しくなってきた昨今です。要求や苦情を申し立てる保護者の表層部の言葉のみを捉えるのではなく、その

背後にある深層部が何であるのかを心に留め、子育てに不安を抱えている保護者をまずは受け止めて話をよく聞くことが大切であること。保育者は子育てが難しいと思っている保護者に、子どもの素敵な面をたくさん伝えて、子育てが楽しくなるような魔法をかけてあげることが出来ることをお話ししてくださいました。

その後の演習では、親・子ども・担任・他の保育者・園長という配役で、一カ月後〜一年後と演じてみました。あらゆる手を尽くしても状況の変化が見られなかった時、保護者の態度で右往左往することを止め、子育て中の親を孤独にさせず、何があっても揺らがらない姿勢で園全体で温かく包み続けたことで、保護者が心を開き、問題解決の糸口を掴むことが出来たという実例から、園と家庭との連携は信頼関係が入り口であることを改めて心に刻み、閉会となりました。

みくに幼稚園園長 國尾 雪



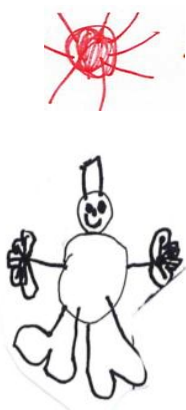
第二回講演会報告

平和学園幼稚園 河窪悦子

十一月五日、「幼児期の子どもの教育はどうあるべきか」という小川博久先生のご講演は、参加者全員に様々な問いをなげかけてくださいました。同時に、自らの保育を振り返り、省察しつつ新たに一步を踏み出すための時を与えてくださったと思います。

まず先生は、「今、子どもの幸せが守られているだろうか」と話されました。親子の間に絆があれば見えない応答関係がある。そこでは「子どもの波長を読む」ことが大切で、それは言葉にならないコミュニケーションである。子どもにとって幼稚園に来て最初に応答を合わせるのは保育者で、親子の間と同様に応答関係が必要であり、これがとても重要であると教えてくださいました。そして日常生活の中で母が子どもの豊かな関係を築いているだろうか。子どもは自然のテンポで生きているが、大人のテンポは速いと言われました。この差が現代は開きすぎているから大人が苛立ちを覚えているのではないかと。これからは親を受け止め、子どもとも親ともペースを合わせていくことが保育者にも大切なことと話されました。

また、幼児教育の基本はしっかりと見ること、しっかりと相手の目を見てアイコンタクトをやることが大切である。子どもをひとりの人格としてきちんと見ることが大切であると教えてくださいました。そして、今の日本の幼児教育で一番欠けているのは、人間関係であり、人と人がつながって互いに仲良く平和に生きていくために手をつなぐことのうれしさや喜びを幼児期のうちにしっかりと蓄えていくことが重要だと話されました。幼児期は人間が形成されていく一番大事な時であり、学びは生活の中にあると。遊びは封建時代からあり、見てまねるということ。先生がすてきだと子どもは真似したくなるので、子どもがあこがれる先生であってほしいと言われました。そして、子どもにとって幼稚園が幸せの場であるように、子どもの将来を幸せにするために、人と手をとって合って生活者として自立していかれるよう、保育者は自分の職業に美意識と誇りを持って子どもも理解をしていってほしいと締めくくられました。学びを感謝します。



“めぐみの子幼稚園”での学び

片瀬のぞみ幼稚園 草ヶ谷弘子

昨年度まで年に一度、各園の主任が集い、講演を聴き、ゆつくりと語り合う時をもって、研鑽を積みみたいと、「一泊主任会」を持っていましたが、今年は形を変えて学びの時を持ちました。

十一月二十九日(土) 暖かく穏やかな秋の一日、茅ヶ崎北部にある自然豊かな「めぐみの子幼稚園」に集い、豊嶋ときわ先生(園長)の講演「環境を通して学ぶ」を聴き、午後には園内を自由に見学させていただきました。

豊嶋先生は、「ひかりの子幼稚園」「めぐみの子幼稚園」二つの園の園長をしています。少人数保育を大切にするために、殺到する入園希望者を一人でも多く受け入れられるようにと、「めぐみの子幼稚園」を新設されたそうです。そしてそれは、神さまがお与えくださった使命と受け止めているということでした。

先生は二つの園に関わる中で、一つ一つの園がそれぞれに違う風(雰囲気)をもっていると感じられたそうです。しかし、それぞれが置かれている環境(状況)の中

で、キリスト教、遊び、自然(環境)、障がい児(ひとりひとり)を大切にするとということ、それぞれの園がそれぞれの形で守っている大切さを語られました。特に大切に考えている「環境」について四季折々に花を咲かせる植物の育て方、畑作り、手作り遊具の事など、お話くださいました。園庭が広くても狭くてもできる事があり、できる事をする事が大切であると力説されました。

明るくお元氣な先生にも悩みがあるようで、最後に『神様は全てを良くしてはくださらず、どんなすばらしい園にも問題はある。しかし、その事を通して次に向かう力が与えられていく。それが神さまのみ旨と受け止める。』と語られました。

私たちの園ではなにができるだろう? と勇氣と希望をいただいた一日でした。



《役員会報告》 書記 田名網 仁

十一月十三日（火）平塚二葉幼稚園にて第四回役員会が行われ、十二月五日（水）清水ヶ丘教会にて臨時役員会が行われましたので報告いたします。

◆菊名愛児園・私塾まきばの二園がキリスト教保育連盟神奈川部会に加盟いたしました。

◆クリスマス礼拝

十二月三日（水）十五時～

会場 清水ヶ丘教会

説教 三原信恵先生（茅ヶ崎堤伝道所牧師）

◆園長・主任研修会

一月十五日（木）十六時～十九時

会場 清水ヶ丘教会

講師 永井理恵子先生（聖学院大学人間福祉学部児童学科 准教授）

参加費 無料

◆全体主任会

二月十三日（金）

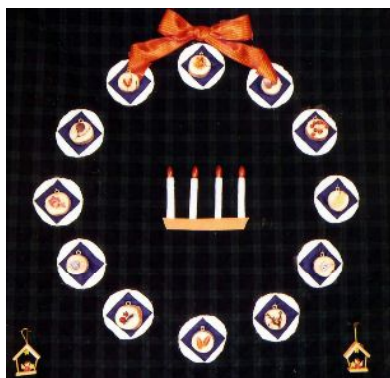
◆二〇〇九年度役員改選につき、様々なアイデアが出され次回役員会にて話し合うこととした。

◆クリスマス礼拝献金送付先
献金総額は二万三千四百〇〇円

横浜訓盲学院に八万三四〇〇円

陸前古川教会付属古川幼稚園に五万円、国境なき医師団に五万円、チャイルドファンドジャパンに五万円を送金いたしました。

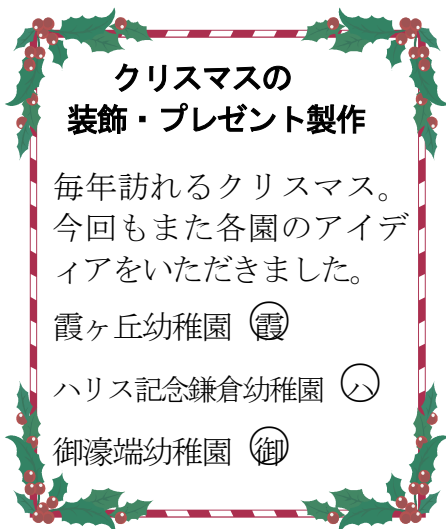
皆様のご協力に感謝致します。



⊕ アドベントカレンダー



⊕ 左から年長、年少、年中



クリスマスの
装飾・プレゼント製作

毎年訪れるクリスマス。今回もまた各園のアイデアをいただきました。

霞ヶ丘幼稚園 ⊕

ハリス記念鎌倉幼稚園 ⊕

御濠端幼稚園 ⊕



⊕ 年長 まつぼっくりのツリー

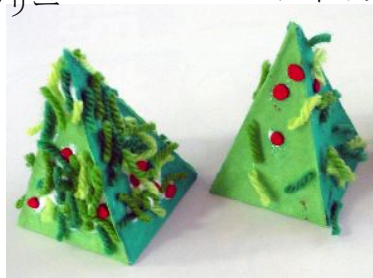


⊕ コルクでページェントの役を作って



⊕ 畑で収穫したさつま芋のつるのリース

⊕ 年長 布でくるんだ王冠をフェルトのツリーに飾って



⊕ 年少 牛乳パックと不織布に毛糸と赤いフェルトを貼って



⊕ 年中 段ボールに布。割りピンでとめて揺れるツリー。



編集後記

今回も多くの皆様のご協力を感謝いたします。学びを深め、保育に生かせる部会だよりになれば嬉しく思います。これからも皆様と神奈川部会を盛り上げてまいりましょう。ご感想をお寄せください。

発行日

二〇〇九年二月十三日

発行所

平塚市見附町六一十八

平塚二葉幼稚園 内

キリスト教保育連盟 神奈川部会

編集者

神奈川部会 広報担当